



子どもといっしょに大きくなろう

酒田っ子すくすく子育て講座

バックナンバー



第1回

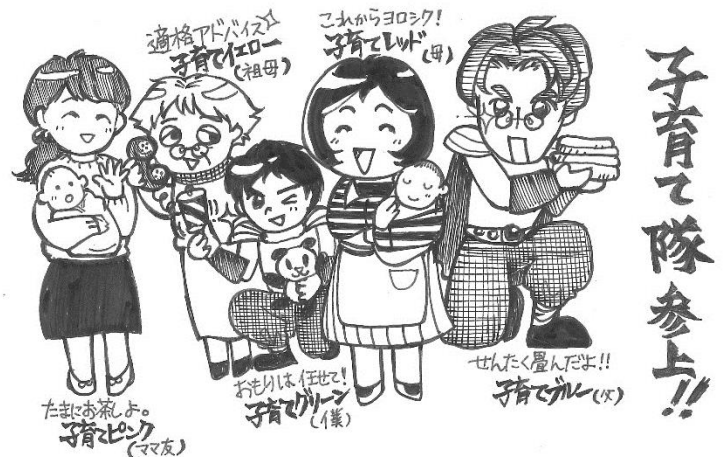
子育て応援団

東北公益文科大学教授 國眼眞理子

生まれて5か月になるマーちゃんはお父さんとお母さんの三人家族です。昼間は、目下育児休業中のお母さんと過ごしています。お母さんは「マーちゃんは近頃、お父さんが夜に仕事から帰ると、私には見せないような笑顔を見せる」と言います。お父さんは「高い、高い」をしてくれたり、くすぐったり、面白い顔をしたりと、お母さんと一味違う接し方をしてくれます。こんなお父さんとのやり取りがうれしいのでしょう。

子どもが幼いうちは、母親が育てるのが一番という考え方がありますが、子どもは、自分が求めているものを察して、それに応えてくれる人が大好きです。生まれた当初こそ母親との結び付きが強いのですが、周りの人との関わりが豊かになるにつれ、次第に複数の人を頼りにするようになります。眠いときやおなかがすいたときにはお母さんのところ、遊びたいときにはきょうだいのところ、外へ遊びに行きたいときにはお父さんのところへとといった使い分けをするようになります。ちなみにマーちゃんは、寝るときには、お母さんよりもお父さんの方がいいようです。

子どもが健やかに育つためには、大人の手助けが必要です。子どもにとってはお母さん一人よりも、多くの人から世話を受けられた方が好都合です。子どもはお乳をくれるから、あるいはいつも一緒にいるから、その人と気持ちが通い合うようになるわけではありません。お母さんがゆとりを持って子どもに接することができるように、子育て応援団は多い方がいいですね。



イラスト：戸村美紀